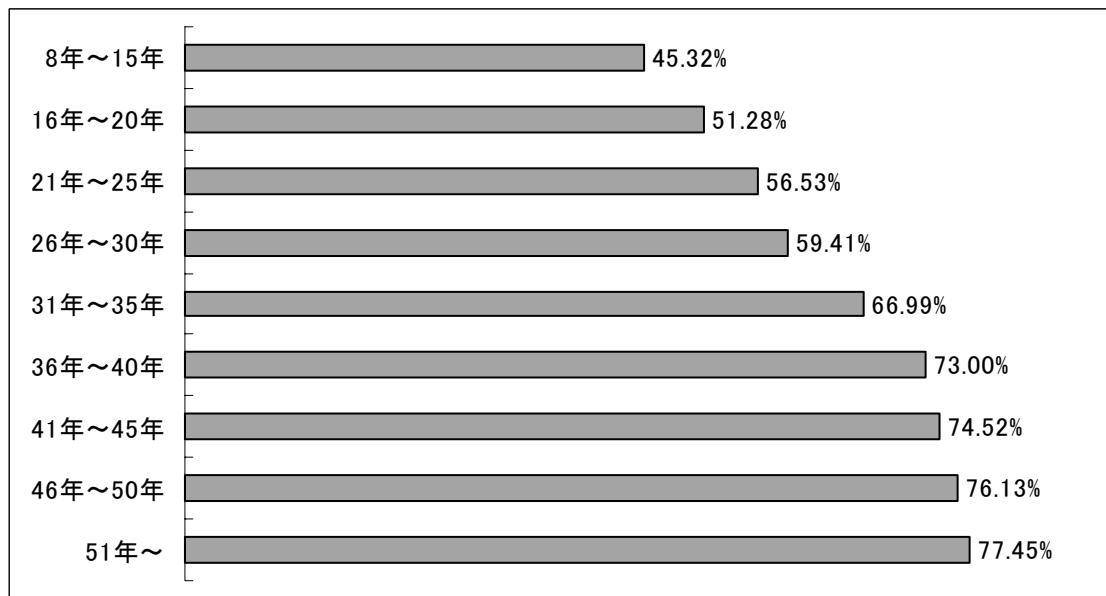


■ 1階に寝室がある家屋の割合

診断後のアンケートでは、1階に寝室があるかどうかの設問項目があります。阪神淡路大震災では、木造家屋は1階から倒壊しており、寝室が1階にあるか2階にあるかで大地震時の生存率に影響すると言われていています。ここでは1階に寝室がある家屋の割合を築年数別に分析しました。

1階に寝室があるか

築年数	はい	いいえ	未回答	割合	合計
8年～15年	969	1169	133	45.32%	2271
16年～20年	781	742	137	51.28%	1660
21年～25年	883	679	168	56.53%	1730
26年～30年	1256	858	222	59.41%	2336
31年～35年	1254	618	224	66.99%	2096
36年～40年	768	284	137	73.00%	1189
41年～45年	462	158	76	74.52%	696
46年～50年	185	58	48	76.13%	291
51年～	158	46	30	77.45%	234
合計	6716	4612	1175	59.29%	12503



■ 築36年以上は7割以上が1階に寝室、災害弱者である高齢者の対策が急務

上記結果のとおり、1階に寝室を置く割合が築年数を経るにつれて増えていることがわかります。築年数の古い建物ほど高齢者が生活している割合が増え、高齢化に伴う身体的な理由から生活範囲を1階に集中させる傾向が顕著に現れています。地震時の家屋の倒壊で、1階の死亡率は2階の4倍と言うデータがあります。住宅の耐震化対策は高齢者対策とも言え、バリアフリー等、住宅の高齢化対策と共に住宅の耐震化を検討する必要があります。